

## 「日本女性会議2025榎原」第8回臨時実行委員会報告

### 全文要約(公開用)

<u>1 開催日時</u>	令和7年7月4日(金) 午前10時~12時00分
<u>2 場所</u>	大和信用金庫八木支店3階第1会議室
<u>3 出席委員</u>	17名(代理出席2名)
<u>4 欠席委員</u>	9名
<u>5 事務局</u>	8名(榎原市企画戦略部、人権政策課)

### 6 報告事項

- (1) 榎原市民の参加費引き下げ及び枠拡大について
- (2) 市内在住・在学の学生枠の新設について
- (3) ノベルティの充実について
- (4) 協賛特典の拡大について

### 7 議事の経過の概要及び議決の結果

#### **\*6 報告**

##### **【事務局報告】**

(事務局)

今回の臨時実行委員会開催の経緯をご説明いたします。

6月に開催された定例議会中の勉強会で、市議会議員の皆様から、日本女性会議2025榎原に関して費用面での参加ハードルやシティセールスにおけるノベルティの充実についてご意見をいただきました。

特に、参加者数の確保については、市議会としてもご心配されており、7月頃に具体的な参加人数を共有することで、協力いただけるとのお言葉を頂戴しております。

榎原市議会は、本大会の後援名義にもご協力いただいております。また、先月には市長と議長がロゴマーク入りのポロシャツを着用し、テレビ番組に生出演され、大会内容の紹介や参加の呼びかけを行っていただきました。

6月27日付で、市議会議員全員のお名前で議長宛に、また同日、榎原市議会議長名で市長宛に、日本女性会議2025榎原の開催に関する要望書が提出されました。要望の趣旨は以下の3点です。

- 1 榎原市民および学生が参加しやすい施策に取り組むこと。
- 2 市外・県外からの来場者に榎原市の魅力を深く知ってもらえるような施策に取り組むこと。

3 全庁的に調整し、職員の負担を分散するような受け入れ体制を整えること。

上記の要望を受けまして、特に「檀原市民および学生が参加しやすくなるよう、参加費の引き下げおよび枠の拡大、市内在住・在学の学生枠の新設」と、「来場者に檀原市の魅力を深く知ってもらえるような施策に取り組むよう、ノベルティグッズの制作にかかる費用」について、補助金の増額を盛り込んだ補正予算を今月 7 月に上程する予定です。

この補正予算が可決された場合の今後の進め方については、この後改めてご説明させていただきます。

(事務局)

それでは、報告事項 1 から 4 についてご説明します。

#### 1. 檀原市民の参加費引き下げと枠拡大

現在、檀原市民の参加費は先着 200 名まで 4,000 円ですが、変更後は先着 400 名まで 1,000 円にする予定です。

この変更は、7 月の臨時市議会で補正予算が可決された後、実行委員会から市への補助金増額変更申請を経て実施されます。ホームページや参加申し込みシステムで料金と対象人数を変更し、7 月 23 日から 25 日にかけてシステムを改修します。すでに申し込み済みの該当者には、26 日以降、新しい参加費での支払いが可能になったことをメールで通知します。

この引き下げと追加分の所要額は、200 名分の 3,000 円減額(60 万円)と、新たに追加される 200 名分の 4,000 円(80 万円)を合わせた合計 140 万円となります。

#### 2. 市内在住・在学の学生枠新設

現行では学生の参加費は先着 200 名まで無料ですが、これに加えて先着 300 名まで市内在住・在学の学生を無料とする枠を新設する予定です。

この追加分の所要額は、5,000 円 × 300 名で 150 万円となります。

#### 3. ノベルティの充実

大会当日に配布する会議資料等を入れるためのノベルティグッズ(エコバッグやトートバッグなど)を作成する予定です。檀原市のパンフレットのデザインなどをモチーフにした、記憶に残るようなものを検討しています。

このノベルティグッズ制作にかかる所要額は、500 円 × 2,000 個で 100 万円を見込んでいます。

#### 7 月補正予算への上程

上記 1 から 3 の市民参加費引き下げ、学生枠新設、ノベルティ充実に関する費用は、7 月の補正予算として市議会に上程する予定です。

#### 広報活動について

8 月号の広報かしはらで、見開き 4 ページを使って男女共同参画・ジェンダーと日本女性会議の特集を組み、広く周知を図ります。

各種 SNS などでも、参加費引き下げや枠拡大、学生枠新設について周知を行います。

#### 4. 協賛特典の拡大

協賛金・寄付金は、6月30日現在で144件、18,328,000円の入金、また、見込として8件、585,000円の入金予定をいただいております。当初目標額の14,800,000円を約4,000,000円上回る結果となりました。

この目標額を上回った分から捻出する形で、協賛企業・団体様への特典を拡大します。

100万円以上の協賛企業・団体様 大会への招待者を現行の5名から10名に拡大します(交流会は現行通り5名)。

50万円以上および30万円以上の協賛企業・団体様 大会招待者は現行通り(それぞれ5名、3名)です。

10万円以上の協賛企業・団体様 現行では大会招待がありませんでしたが、新たに1名を招待することとします。

この協賛特典拡大にかかる所要額は、6月30日現在で合計745,000円となる見込みです。

これらの内容は、市議会の議決後、実行委員長の専決で予算編成を行う予定です。

#### 【意見】

(委員)

減額はとても良いことだが、既に発行しているチラシ、パンフレット類の記載内容は訂正するのでしょうか。

(事務局)

すでに発行済のものに関してはそのままですが、HP等で訂正したものをUPします。

現在、従来の料金が記載されたポスターがありますが、市内への配布は控えめにしていました。今後は、新しい料金と定員に基づいたポスターを作成し、配布します。

例えば、8月の広報誌で約700部を各自治会に配布し、掲示をお願いする予定です。これにより、新しい体制を反映したポスターで市内の周知を強化していきます。

それ以外の広報は、主にホームページなどのデジタル媒体で周知していきます。一部、従来のポスターが残る場合がありますが、ご理解いただけますと幸いです。

(委員)

今出しているチラシは回収しないのでしょうか。すでに配架されているチラシで金額が高いままであれば、新たに人を呼び込めないと思うのですが。

(事務局)

配架を把握している分については記載修正したシールなどを作り、貼ることを検討しています。

(委員)

現時点では申込のみで、支払いはまだでしょうか？

(事務局)

はい。先ほどの説明のとおり、23~25日にかけてシステムの修正を行い、その後メールにて支払いのご案内を行います。

(委員)

新しい料金の周知はいつから始められますか？ 議会の可決を待たずに告知しても良いのでしょうか？また、新しい料金が記載されたチラシのデータは提供してもらえますか？

(事務局)

議会に上程後、議決を経てから正式に決定となりますので、その後をお願いします。臨時議会は7/8の予定です。チラシ等についても追って提供させていただきます。

(委員)

今回の変更は市内が中心のため、市外への案内は継続してよいわけですね。学生枠を増やすのであれば、学校へのご案内もしているのですか？

(事務局)

そうですね、そのあたりもまた周知は図っていききたいと思います。

(委員)

協賛金が目標額を上回ったとのことだが、まだ募集は継続した方がよいですか。締め切り等ありましたでしょうか。

(事務局)

協賛金は6月30日をもって一旦締め切りました。しかし、7月末に発行予定のパンフレットに協賛企業・団体名を掲載するため、現在も一部の方にはご案内を続けています。

つきましては、7月末までにご入金いただければ、パンフレットへの掲載が可能です。

もしご検討いただけるようでしたら、ぜひお声がけください。

(委員)

市議会で可決されれば、市民は1,000円(先着400名)になりますが、市外の方は5,000円ですよね？そうすると、友達同士で参加した場合、市内の人は1,000円、市外の方は5,000円と5倍の料金になるということでしょうか？また、市民枠が400名を超えた場合も5,000円になるということではよろしいでしょうか？

(事務局)

おっしゃる通りでございます。

(委員)

金額変更について、8月号広報への掲載は間に合うのですか？

(事務局)

はい、間に合うように調整中です。

(委員)

ホームページは議会終了後すぐに更新し、8月の広報誌でも発表されるとのこと、確認いたしました。懸念されるのは、市外の方の参加費が5,000円と、市民の5倍になる点です。この料金差に対する対応には注意が必要だと考えております。

次に、資料4の協賛特典拡大について、協賛金が目標額を大幅に上回っている現状を鑑みると、現在の招待人数で十分なのか疑問があります。特に50万円以上の協賛で招待人数が5人、10万円の協賛では1人というのは、市民の参加費を引き下げて動員を図ろうとしている方針と合っ

いるのか気になります。

また、参加費の引き下げと予算増額は、「2,000 人の参加者を集めること」が暗黙の目標になっていると理解しています。もし目標人数に達しなかった場合、次回の議会で厳しい意見が出る可能性があるため、今後は参加申し込み者の募集に、より一層注力する必要があると考えています。

(委員)

次回の実行委員会は 8 月 22 日ですが、その時にはすでに申し込み期限が終了しています。目標達成のためには、早急に体制を切り替え、動員に力を入れる必要があるという意見です。事務局の方々には大変ご苦勞をおかけしますが、ご尽力をお願いいたします。

(委員)

資料 3 のノベルティの充実について、質問です。

もともとノベルティの費用は支出に含まれていたと思いますが、今回の「500 円 × 2,000 個」という金額は、「バッグ」が追加された分なのでしょうか？プレ大会でいただいたボールペンとは別に、このバッグの費用が増えた、という理解で合っていますか？

(事務局)

はい、おっしゃる通り、バッグについての予算です。

(委員)

バッグなどはこういう会議でよく配付され、記憶に残るものです。配布資料も入りますので、ぜひ入れていただきたいです。前の予算ではバッグはなく、ノベルティはボールペンのみの予定だったんでしょうか？

(事務局)

元々の予算では、おっしゃる通りボールペンと簡易な袋を想定していました。しかし、要望書をいただいたことや、会長からも「記憶に残るもの」というお話があったことを踏まえ、バッグもその一つとして充実させる方向で予算を計上させていただきました。

具体的には、マチをつけたり、イラストを充実させたりするなど、内容をより使いやすく、記憶に残るものにしたいと考えています。この点をご理解いただけますようお願いいたします。

(委員)

学生の参加者数について心配しています。

日本女性会議は、これまで比較的年齢層の高い参加者が多かったと認識しています。しかし、檀原大会は初めて若い世代を主な対象とすると伺っています。最終的に若い世代の参加が少なければ、会議全体の盛り上がりには欠け、本来の趣旨から外れてしまうのではないかと懸念しています。

特に、檀原市内には大学がそれほど集中しているわけではないため、市内在住・在学の大学生の参加を促すための具体的な方策や、実際に参加を呼びかけるための活動があれば教えてください。

(事務局)

学生の参加を増やすため、各大学へ授業の一環として参加できないか依頼しています。本来ならもっと早くから働きかけるべきでしたが、現段階でも一部の大学から 40 名、30 名といった参加の見込みをいただいています。

市の担当事務局が各分科会をマネジメントする中で、学校と連携し、学生団体での参加を呼びかけています。先日も、ある専門学校から30名の参加が決定するなど、日々、懸命に学生の募集に取り組んでいる状況です。

今後は、さらに積極的に働きかけ、学生の参加を促進していく所存です。

(委員)

スタッフTシャツについて、分科会運営に参加する団体メンバーには配付されるのでしょうか？また、それは当日配付されるのでしょうか。

(委員)

ボランティアの方についてもどうなるのでしょうか。

(事務局)

ボランティアの方、スタッフの方いずれにもTシャツは当日配付いたします。ただ、何らかの形でボランティアの方と区別できるようにさせていただく予定です。

(委員)

各委員が分科会集客に尽力されていることは理解しますが、大会の成功には「最後の大会宣言」が最も重要だと考えます。しかし、現在の広報物(市広報やチラシ)では大会宣言の扱いが軽視されており、市のホームページでも目立たない配置になっています。

事務局には、以下の点について改善を要望します。

現在印刷済みのものは難しいかもしれませんが、ホームページなど変更可能な媒体では、「大会宣言」を閉会式と並列でなく、より重要性を示すような形で表記してください。

例えば、「大会宣言 今年度の取り組みと次年度への方針を発表します」のように具体的に示し、閉会式と区別するべきです。

大会宣言の場が閑散とすれば、せっかくの大会の意義が薄れてしまいます。参加者全員に最後にこの最も重要なメッセージを聞いてもらえるよう、事務局が主体となって集客に力を入れてください。

大会の冒頭よりも、最後の大会宣言にこそ、市長と議長に出席していただくべきです。彼らが責任者としてこの場にいることの重みは計り知れません。

もし現時点で最終の大会宣言の時間帯のスケジュールが未定であれば、今すぐにでも(両委員)のスケジュールを確保するよう手配してください。

## **\*その他**

### **【事務局報告】**

(事務局)

本日朝時点での参加申し込み状況をご報告します。

一般申し込み人数 249名

檀原市民 26名

学生枠 12名

また、各分科会の申し込み状況は以下の通りです。

- 第1分科会(健康・医療) 54名
- 第2分科会(歴史・文学) 56名
- 第3分科会(生き方×働き方、なりたい自分) 57名
- 第4分科会(家族) 41名
- 第5分科会(子ども) 33名
- 第6分科会(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ) 74名
- 第7分科会(教育とジェンダー) 32名
- 第8分科会(はたらく女性輝く会議) 71名
- 第9分科会(DV・デートDV) 50名

各分科会を担当されている委員の方々には周知にご協力いただいておりますが、各会場の定員に対してまだ余裕があるため、さらなる周知が必要です。

事務局としても、大会運営庁内組織体制に入っている関係部局の事務局に協力を仰ぎ、例えば看護専門学校などと連携して専門分野の周知を図るなど、残り3ヶ月強で一層の周知に努めてまいります。

特に、大ホールなどの会場の集客は大変であるため、企画部会などに属していない実行委員の皆様にも、ぜひ参加呼びかけへのご協力をお願いいたします。

次に、ボランティアの申込状況についてご報告します。現在、ボランティアの募集人数は約90名ですが、現時点での申し込みは6名(男性2名、女性4名)にとどまっています。

主なボランティアの依頼先は以下の通りです。

県内大学(実行委員が所属する大学)

かしはら未来会議参加高校

檀原市男女共同参画推進団体

檀原市ボランティア協議会(75団体、12個人にメールで依頼済)

檀原市民生児童委員事務局

人権擁護員の皆様

養護学校関連の代表者

厳しい状況ですが、今後も市内の企業や他の団体にも依頼していく予定です。

## 【意見】

(委員)

参加費の支払い方法について、県にも問い合わせが寄せられています。特に、他県の自治体から、公務での参加を検討しているにもかかわらず、現金払いができないために参加が難しいという声が上がっています。

現在、現金払いは受け付けていませんが、視察などを兼ねて参加を希望される行政の方々のためにも、行政枠として前払い請求書の発行や、その他の支払い方法を検討いただけないでしょうか。この機会に、参加を希望される方が一人でも多く来場できるよう、ご検討をお願いいたします。

(委員)

自治体の男女共同参画課や男女共同参画センターといった公的機関からの支払いに関して、何らかの特別な対応を検討されているか、または検討可能かというご質問ですね。

(事務局)

行政機関からの支払いについては、現在クレジットカード払いとコンビニでの現金払いに対応しています。公務で参加される場合、行政の規定によっては事前の現金支出(資金前渡など)が可能かと存じます。

その場合、貴機関の会計から事前に現金を受け取り、それをコンビニで振り込んでいただく、という流れをご検討いただければと思います。

(委員)

コンビニ払いの場合、手数料が申し込み者(自治体)負担となるが、これは公費で対応できるのか、難しいのではないのでしょうか？

(事務局)

おっしゃる通り、手数料負担が生じますが、檀原市では予算化されていれば両方とも公費で支出できます。そのように自治体側で公金としてご負担いただければ。

(委員)

コンビニ払いの手数料はいくらでしょうか？

(事務局)

1件につき420円です。

(委員)

前払い請求書発行等はせず、手数料をご負担いただくしかないということではよろしいですか？予算化しているところはそれでもいいが、今検討をしている自治体にとっては参加のハードルになるかと思えます。

(委員)

行政の支払については難しい面もあるため、今後事務局としても再検討し、県に回答いたします。

(委員)

男女の関係課だけでなく、各市町村の人権センターなどにも多くの団体が訪れるので、チラシの配架をご検討ください。

(事務局)

人権センターへの配架は現状しておりませんが、各市町村人権担当部署へ、担当者会議などの際に案内を行っております。

(委員)

現在の参加者数と各分科会の申し込み状況をご報告いただきありがとうございます。しかし、特に第1分科会のように定員1,000名に対し54名、全体でも一般参加が14.35%、分科会が23%という状況は非常に厳しいです

締め切りまで残り1ヶ月半という中で、今後どのようにして参加者を増やす計画なのか、具体的な

方策をお聞かせいただきたいです。

特に、市民枠は現在 26 名の申し込みですが、議会では 400 名分の予算が承認されています。この差を埋めるために、どのような取り組みをされるのでしょうか。

今回の会議は 8 月 22 日で、その時には申し込みが締め切られています。そのため、今日この場で、今後の 1 ヶ月半でどのように動くのか、具体的な計画を発表していただきたいというのが、監事としての率直な質問です。

もし現時点で回答できることがあれば、ご説明をお願いいたします。

(事務局)

487 名という数字は、現時点での合計申し込み人数です。分科会は 2 つ選択できるため、一つしか選んでいない方もいらっしゃる可能性があります。

現在、申し込み締め切りまで 1 ヶ月半を切っており、残された時間はわずかです。特に、市議会で承認いただいた市民枠や学生枠の拡大に見合う参加者を確保することは、喫緊の課題と認識しております。事務局一同、どのように参加者を増やしていくか、日々頭を悩ませています。

各分科会の担当副部長は、それぞれ独自のチラシを作成するなど、工夫を凝らして集客に努めています。7 月 7 日には企画部会が開催されますので、そこで担当副部長と具体的な戦略を練る予定です。

協賛金は目標額を達成でき、大変感謝しております。しかし、大会を成功させるためには、目標の 2,000 人規模の参加者を確実に集める必要があります。予算も組んでいただいている以上、この目標達成に向けた意気込みは非常に強く持っています。

(委員)

現在の申し込み状況を見ると、待っているだけでは目標人数には到達しないことが明確です。特に、残された時間は 1 ヶ月半しかありません。

事務局の努力だけでは限界があるため、各委員の皆様には危機感を持っていただき、積極的に参加者の呼びかけに動いていただく必要があります。

商工会議所も、担当分科会の状況を見て「これはまずい」と感じ、奈良県中の商工会議所に働きかけようと焦っているところです。

各委員の皆様には、担当の分科会や関連する分野で、頭を下げてでも各種団体に声をかけ、参加を促してほしいです。

「料金が 1,000 円に下がったこと」「10 万円の協賛でも 1 人招待できるようになったこと」など、具体的なメリットを伝えて、積極的に誘致してください。

ホームページや広報に頼るだけでなく、ご自身の部会で何とか集客しようという強い意識を持ってほしいです。

一部の分科会が満員になった場合は、他の分科会への誘導も検討するなど、柔軟な対応も必要かもしれません。

事務局が市職員である以上、全ての団体に声をかけるのは難しいでしょう。したがって、本日のご参加者の皆様は「これはまずい」と肌で感じ、一人でも多くの参加者を確保するために、汗をかいて

動員にご協力いただくことが、大会成功の鍵となります。

残り 1 ヶ月半しかありませんので、委員各位には申し込みのお願いに回っていただくよう、心よりお願いいたします。

(事務局)

大会の締めくくりが、若い世代が未来を担っていくという形になるよう、事務局としても企画部会と協力して検討を進めてまいります。

先生方からのご意見も参考にさせていただきながら、残り 3 ヶ月を切った本番に向けて、精一杯努力いたします。引き続きご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

(委員)

奈良女子大学にもジェンダーに関する先生がいらっしゃるということで、大学レベルでは既に様々な取り組みがなされていることを踏まえると、現状の取り組みは少し弱いと感じています。

企画部会でこの点も一緒に考えていただきたいのですが、今回の大会が成功し、次に日本女性会議を開催する際に市長が前向きになってくださるような良い流れに繋げていきたいです。

そのためには、先ほども申し上げた閉会式と大会宣言が非常に重要です。時間がないことは承知していますが、この部分について改めてご検討いただけますと幸いです。

(委員)

現状、団体申込などは可能なのでしょうか？また、市内外の人も同時に申し込めるのでしょうか。

(事務局)

10 名単位でまとめて申込可能です。市内外の方も、申込時に一人ずつ区分選択と、必要に応じて書類添付が可能です。

(委員)

万博の申し込みをした際も、すごく大変だった。やはり申し込みがハードルになる方もいるのではと思う。

(委員)

橿原市在住の知人から、どうしてもうまく申込できないと連絡がありました。書類添付のところで躓いているのかもしれない。

(委員)

企画部会が中心となっていていい内容を作っているから、参加していただければ満足してもらえらると思います。申し込みは大変ですが、事前に煩雑であることを伝えておくことで、少しはハードルを下げられると思います。

(委員)

奈良県がこの分野でまだ発展途上であることは現実だと認識していますが、その現状を悲観的に捉えるのではなく、ここからどうしていくかが重要です。

今日の会議の終わり方に、もしかしたら皆さんが少し落ち込んでしまったかもしれません。正直なところ、私もそう感じました。しかし、この大会は私たちにとって大きなチャンスです。

皆さんには「これからしっかり頑張っていこう」という前向きな気持ちで帰っていただきたいと強く思

っています。この大会を成功させるために、これから一丸となって頑張っていきましょう。

(委員)

今回、様々ご指摘させていただきましたが、これは本日しかお伝えする機会がないためです。

私が最もお伝えしたかったのは、奈良で 40 番目の大会を開催すること、そして次の世代に繋げていくという意義です。この大会が新たなスタートとなり、目に見える形で変化が生まれ、参加者の皆さんが元気になって帰っていただけるよう願っています。そのためには、若い方々にぜひ来ていただきたいという思いで発言いたしました。

(委員)

広報部会としても料金改定を含めてしっかり周知できるよう、SNS なども含めて、見た人に引っ掛かりやすい内容を発信していきます

(委員)

こういった大きな催しは、何年も前から準備しても、開催寸前で問題や変更が生じがちなものです。委員全員がいい大会にしたいという思いを持っているかと思しますので、一丸となって残り数か月、協力しながら頑張っていけたらと思います。

(事務局)

本日も長時間にわたり、臨時実行委員会にご参加いただき、貴重なご意見を多数いただきまして、誠にありがとうございます。

大会開催まで残り 3 ヶ月、100 日を切りました。事務局一同、精一杯頑張っておりますので、実行委員の皆様方のご協力も引き続きよろしくお願いいたします。市議会の議員の皆様からも、共に頑張ろうという力強いお言葉をいただき、大変心強く感じております。これからさらに士気を高め、ラストスパートをかけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

(委員)

今回の日本女性会議 2025 榎原の開催にあたり、市議会をはじめ、榎原市が非常に前向きに、そして積極的に動いてくださったことに心より感謝申し上げます。

特に、当初は人権政策課だけでは運営が困難だと懸念していましたが、事務局の体制を強化し、市長も率先して受け入れ体制を整えてくださったことに安堵しています。私たち実行委員会は素人の集まりですが、行政がプロとして運営を指揮してくださることで、全国大会を受け入れる体制が整ったと感じています。市長へも感謝の意をお伝えしたいです。

実行委員会は、長年この大会の準備に携わってきました。大会まで残りわずかとなり、皆様には引き続きご苦勞をおかけしますが、成功に向けてあと少し、共に頑張っていきたいと考えております。

(事務局)

次回の第 9 回実行委員会は、8 月 22 日の金曜日午前 10 時からこの場所で開催予定です。